

# 大田っ子だより R6. 11. 6 文責 校長

## ～運動会第1弾～

大変心配していた天気も、子どもたちが作ったてるてる坊主に込めた願いが天に届いたのか、秋季大運動会を予定通り、10月27日(日)に実施することができました。ご協力いただいた皆様方に、改めて心より感謝申し上げます。



いよいよ開会式。「白組いくぞー!」「赤組いくぞー!」の団長の声に、団員たちが声を合わせて「おー!!」と返し、元気よく走って入場です。フィールド内に入ってきた子どもたちは、背筋をピンと伸ばして立ち、しっかり前を見つめています。表情も引き締まり、やる気に満ちています。各組毎による決意表明では、みんなで気持ちをひとつにして各組のスローガンを声高らかに発し、子どもたちのやる気もさらに高まっているようです。



式後の応援合戦。子どもたち全員がポンポン等を手に、フィールド内に入ってきました。団長同士が固い握手を交わした後、エール交換と応援合戦です。「フー! フー!・・・」「おー!!」のかけ声や応援歌等、どちらの組も声が大きく響き渡り、手足の動きも息がぴったり合っています。休み時間に組毎に自主的に何度も集まり、応援練習を重ねてきた成果がしっかりと発揮されており、大変すばらしい応援合戦でした。



最初の競技は、短距離走です。走者がコースに並び、呼名されると、「はい!」と遠くまで聞こえる大きな返事で応えます。合図で、一齐にスタート。みんな勢いよく走りだします。その子どもたちの背中を、「頑張れ～」という声援やたくさんの拍手が力強く押してくれています。応援を受けながら誰もが順位に関係なく、ゴールめざして全力疾走で駆け抜けることができました。



全校競技『玉入れ』では、“学園天国”の曲に合わせて、かごの周囲を歩いて移動する中で、振り付けやかけ声を入れ、決まったメロディーになったときに玉を入れ始めるというものでした。

小運動会翌日のことです。全校の子どもたちが、小運動会の『玉入れ』の様子をビデオを見ながら、みんなで決めた玉入れのめあて“楽しく、かっこよく、助け合ってがんばる玉入れ”になっているか、振り返る時間を取りました。

すると、子どもたちから、「振り付けを笑顔で楽しそうにやった方がよい」「大きい声でかけ声を言った方がよい」「手をしっかり上にあげた方がよい」「曲のリズムに合わせて歩いた方がよい」「顔は前を向いて歩いた方がよい」という見直しの考えが出されました。これらの意見を踏まえ、授業中の練習時間がたった1時間しかとれない中で、子どもたちは練習をさらに重ねていました。

その日の昼休み、ふと運動場を見ると、赤組が玉入れの練習をしているではありませんか。体育館に行くと、白組も集まって練習しています。“メインの玉入れの練習が不足しているから昼休みに練習しよう”と、団長たちが率先して団員に声をかけたのだそうです。赤組は、玉を一度に数個持って投げ入れる作戦を練習し、白組は、バスケットのゴールに向かって玉を投げ入れています。

大運動会当日。“学園天国”の曲が流れてきました。子どもたちのかけ声が大きく響きます。曲に乗って体が動いています。そして、みんながかごめかけで一斉に玉を投げ始めました。練習の成果を発揮しようと、みんな必死に頑張っています。

笛がなりました。結果は、なんと赤組白組とも16個。この勝負は引き分けに終わりました。この日までの両組の頑張りを考えると、“引き分け”というのでも“なるほど”、納得がいきます。五分と五分、相互の頑張りに拍手です。

この玉入れひとつとっても、小運動会での見直しにより、大会当日までの課題が明らかになり、その克服に向け修正点を子どもたち自身で見つけ、解決していく過程こそ、何物にも代えがたいものと考えています。

